

日本の理学療法史 (注理学療法士前史として)

日本のPT前史から現在に至る道筋

- 1. 日本ではPTになるため、原則的に所定の学校（大学等）を卒業し、国家試験の合格を経なければならない。

問屋真知子さん

- 群馬県に住む問屋真知子さんは高校2年生。進路に悩んでいる。
- 時々実家に戻る両親の田舎に、祖母が一人暮らしをしている。2年前に脳卒中で倒れ、病院に入院し、施設を経て、自宅に戻り訪問でPTを受けている。
- 訪問でやってくるPTの姿になんともなく憧れている。
- 今日はその先生に、どうやったらPTになれるか尋ねてみようと思う。

我妻フミヤさん

- 群馬県に住む我妻フミヤさんは高校2年生。進路に悩んでいる。
- 友人のTさんとは、良く話をする仲。そのTさんの祖母の訪問リハビリに、時々年をとったPTが来るという。そのPTさんは、卒業学校名を尋ねると、PTの学校を卒業していないという。
- 調べると、PTになるには大学や専門学校を卒業しなければならないとある。疑問が湧いて湧いて、仕方ないフミヤさんは、、、
- ある大学の理学療法学科に入学した知り合いの人に聞いてみることにした。

なぜ 理学療法士前史を 知らねばならないのか？

- 日本に理学療法士ができた（生まれた）のは昭和40年、1965年
- これは法律に則ってPTOT法ができたことを持って、PTこと始めと言われていることだけでは、その後の混乱の理由がわからないことから、今日に至るまでの諸外国と異なる日本のPTOTをめぐる事情について、なるべく史実に基づいた解釈ができるようになるためであり、強いては、将来どういう方向に行くのかを予測するための土台となる考えを持つことができるからだ。

1963年 東京清瀬市にリハ専門学校誕生

- 国立療養所東京病院附属リハビリテーション学院
- 日本初の理学療法士・作業療法士養成校。
- 1963年（昭和38年）5月1日 - 国立療養所東京病院附属リハビリテーション学院開校
- 2004年（平成16年）4月1日 - 国立病院機構東京病院附属リハビリテーション学院となる。
- 2008年（平成20年）3月31日 - 閉校

45年の寿命



1965年 昭和40年 理学療法士法発足

- この年、晴れて日本に法律の下、理学療法士・作業療法士が誕生した。

1965年の流行語

キャッチフレーズなど	商品名など	メーカー	出演者
わたしにも写せます	フジカ・シングル8	富士フィルム	扇千景
飲んでますか	アリナミンA	武田薬品工業	三船敏郎
ファイトでいこう	リポビタミンD	大正製薬	王貞治
おいしいとメガネが落ちるんですよ	オロナミンC	大塚製薬	大村崑
特級をもしのぐ一級	新ブラックニッカ	ニッカウヰスキー	—



- しかし、1965年、国家試験を受験したのは、リハ学院の卒業生
だけではなかった。

- 誰？

- この謎を解くカギが



なぜ 特例制度が存在したか

- 第四章 業務等

- (平一法一六〇・改称)

- (業務)

- 第十五条 理学療法士又は作業療法士は、保健師助産師看護師法(昭和二十三年法律第二百三十三号)第三十一条第一項及び第三十二条の規定にかかわらず、診療の補助として理学療法又は作業療法を行なうことを業とすることができる。

- 2 理学療法士が、病院若しくは診療所において、又は医師の具体的な指示を受けて、理学療法として行なうマツサージについては、あん摩マツサージ指圧師、はり師、きゆう師等に関する法律(昭和二十二年法律第二百十七号)第一条の規定は、適用しない。

- 3 前二項の規定は、第七条第一項の規定により理学療法士又は作業療法士の名称の使用の停止を命ぜられている者については、適用しない。

- (昭四五法一九・平一三法一五三・一部改正)
- (秘密を守る義務)
- 第十六条 理学療法士又は作業療法士は、正当な理由がある場合を除き、その業務上知り得た人の秘密を他に漏らしてはならない。理学療法士又は作業療法士でなくなつた後においても、同様とする。
- (名称の使用制限)
- 第十七条 理学療法士でない者は、理学療法士という名称又は機能療法士その他理学療法士にまぎらわしい名称を使用してはならない。
- 2 作業療法士でない者は、作業療法士という名称又は職能療法士その他作業療法士にまぎらわしい名称を使用してはならない。

- (受験資格の特例)

- 3 この法律施行の際現に理学療法士又は作業療法士として必要な知識及び技能を修得させる学校又は施設であつて、文部大臣又は厚生大臣が指定したもののにおいて、理学療法士又は作業療法士として必要な知識及び技能を修業中であり、この法律の施行後その学校又は施設を卒業した者は、第十一条又は第十二条の規定にかかわらず、それぞれ理学療法士国家試験又は作業療法士国家試験を受けることができる。

- 4 この法律の施行の際**現に病院、診療所その他省令で定める施設において、医師の指示の下に、理学療法又は作業療法を業として行なっている者であつて、次の各号に該当するに至つたものは、昭和四十九年三月三十一日までは、第十一条又は第十二条の規定にかかわらず、それぞれ理学療法士国家試験又は作業療法士国家試験を受けることができる。**
 - 一 学校教育法第五十六条第一項の規定により大学に入学することができる者又は政令で定める者
 - 二 厚生大臣が指定した講習会の課程を修了した者
 - 三 病院、診療所その他省令で定める施設において、医師の指示の下に、理学療法又は作業療法を五年以上業として行なつた者
- (昭四六法二八・一部改正)

近代鍼灸教育の父

奥村三策の 生涯

松井 繁



森ノ宮医療学園出版部

奥村三蔵とは

- おくむら さんさく、[1864年4月27日](#)（[元治](#)元年[3月22日](#)） - [1912年](#)（[明治](#)45年）[1月2日](#)）は、[日本](#)の盲目の[盲学校教師](#)。
盲学校の職業教育に理療を確立させた。

生涯

- 1864年、加賀国
（現在の石川県金沢市）で生まれる。3歳のときに失明した。8歳から加賀藩医久保三柳について鍼灸・按摩術を学んだ。



加賀藩医学館に関係した新史料

金沢市 板垣英治

従来、加賀藩医学館の歴史は、その史料の多くは『加賀藩史料藩末編下巻』より引用して記述されてきた。所が、加賀藩史料には掲載されて居ない医学館史が多く在ることが、この程、『御手留抄』（1）の調査で明らかになった。この史料は加賀藩役人某の政務日記の抄記であり、前田家編輯方手写し十二冊からなり、明治初期の重要な事柄が記されている。明治二年十二月から明治四年三月末までの短い期間の出来事を、日記様に記したものである。以下に本史料から、卯辰山養生所及び医学館関係史料及び学校関係史料を抜き書きして、改めて医学館史を記していく。

一、オスポンの雇い入れと所口語学所生徒名簿

明治二年七月、加賀藩、米人タンソンを語学教師として雇傭せんとし、尋いて之を止む（成瀬正居上書集）。

右外国人雇入之儀、当二月廿九日御聞済に付、右タンソン語学教師 給料一ヶ月二百五十ドル宛指遣相雇、

- 研究意欲が旺盛で、西洋医学を学ぶことの必要を感じ、金沢医学専門学校の教師や学生について解剖・生理・病理などを学び、鍼灸・按摩術の研究をする。

- 上京してさらに研鑽を積みたいという志を持つが、父親は盲人の一人旅に強く反対していた。その父親が亡くなったことから、1886年（明治19年）に上京し、築地の訓盲啞院に入学する。

訓盲啞院



東京盲啞学校（とうきょうもうあがっこう）は、明治後期の日本に存在した官立の盲教育・聾啞教育機関。現在の筑波大学附属視覚特別支援学校、同聴覚特別支援学校の前身に当たる。1888年（明治21年）、文部省直轄の訓盲啞院を改称して設立された。1909年（明治42年）に盲教育部門が東京盲学校として独立したため、その翌年に東京聾啞学校と改称された。

- 1875年（明治8年）5月に、古川正雄・津田仙・中村正直・岸田吟香・ボルシャルト・ヘンリー・フォールズの6人が集まって盲人教育の必要について話し合い、盲人学校を設立するための主体として「楽善会」を発足させることを決めた。翌年、前島密・小松彰・杉浦譲・山尾庸三が加わっている。翌1876年に楽善会訓盲院の設立認可が下り、皇室より3000円が下賜された。校舎は築地3丁目、約4783坪だった。1879年（明治12年）12月、総面積約100坪、総レンガ造りの2階建てで室内は総漆喰塗りの校舎が落成し、1880年に授業が開始された。
- 1884年（明治17年）、当時の日本では盲人だけでなく聾啞者の教育も行おうという観点から聾啞者も受け入れることとなり名称も訓盲啞院と改称した。1886年には楽善会から文部省に移管されて官立学校となり、1888年（明治21年）に東京盲啞学校と改称された。1890年（明治23年）に校舎が小石川区指ヶ谷町に移転。1909年（明治42年）、盲啞分離が実現して東京盲学校が設立され、東京盲啞学校は翌年に東京聾啞学校と改称された。

- <https://www.daigakukotohajime.com/blank-118>

- ところが、技術に優れ、学力識見ともに高かったので、10月から助手に、12月から嘱託に抜擢された。それ以降は、理療の研究と盲学校生徒の教育にあたり、鍼按担当の初代教諭となる

東京盲啞学校

年表 | [創立者・教育者](#) | [参考文献・情報](#)

創立 : 1876(明治9)年

創立者 : 古川正雄、[津田仙](#)、[中村正直](#)、岸田吟香、ボルシャルト、ヘンリー・フォールズ、[前島密](#)、小松彰、杉浦譲、[山尾庸三](#)

前史 :

楽善会訓盲院 → 訓盲啞院 → 東京盲啞学校 → 東京聾啞学校 → 盲啞分離が実現、東京盲学校・東京聾啞学校に → [東京教育大学](#)の付属学校となり、東京教育大学教育学部特設教員養成部、東京教育大学附属盲学校、東京教育大学附属聾学校に

「東京盲啞学校」年表

1871(明治4)年

- [山尾庸三\(32-33歳\)](#)、盲学校、聾学校の設置を主張する建白書を表す。障害者教育に熱心に取り組む。

1875(明治8)年5月

- 古川正雄、[津田仙](#)、[中村正直](#)、岸田吟香、ボルシャルト、ヘンリー・フォールズの6人が集まり、盲人教育の必要について話し合う。盲人学校を設立するための主体として、「楽善会」発足。

1876(明治9)年

- 「楽善会訓盲院」設立認可が下り、東京府より3000円が下賜される。前島密、小松彰、杉浦譲、山尾庸三が加わる。

1875(明治8)年 - 1878(明治11)年5月

- 伊沢修二(23-26歳)、文部省の「師範学校」教育調査のため、神津専三郎、高嶺秀夫と共にアメリカ留学。「マサチューセッツ州ブリッジウォーター師範学校」で学ぶ。同時にグラハム・ベルから視話術を、ルーサー・メーソンから音楽教育を学ぶ。「ハーバード大学」で理化学を学び、地質研究なども行う。聾啞教育も研究。

1880(明治13)年

- 「楽善会訓盲院」、授業開始。

1884(明治17)年

- 「楽善会訓盲院」、盲人だけでなく聾啞者の教育も行おうという観点より、「訓盲啞院」と改称。

1886(明治19)年

- 「訓盲啞院」、楽善会より文部省に移管され、官立の盲教育・聾啞教育機関に。

1888(明治21)年

- 伊沢修二(36-37歳)、文部省直轄の「訓盲啞院」を改称して設立された「東京盲啞学校」の初代校長に。

1890(明治23)年

- 「東京盲啞学校」、校舎を小石川区指ヶ谷町に移転。

1909(明治42)年 - 1910(明治43)年

- 盲啞分離が実現、「東京盲学校」設立。翌年、「東京盲啞学校」は「東京聾啞学校」と改称。

1946(昭和21)年3月

学制改革、第二次世界大戦後の連合国軍最高司令官総司令部の占領下、第一次アメリカ教育使節団の調査結果より、アメリカ教育使節団報告書に基づき、日本の教育制度・課程の大規模な改変・改革が行われる。日本側は、「東京帝国大学」総長・南原繁らにより推進される。主な内容は複線型教育から単線型教育の「6・3・3・4制」の学校体系への変更。義務教育の9年間(小学校6年間・中学校3年間)への延長。複線型教育については、封建制の下における社会階層に応じた教育構造であるとされ、これを除去、教育機会の均等を主目的とした。

- 学制改革にて、国立の学校数を減らすことが意図される。「東京盲学校」と「東京聾啞学校」は「[東京教育大学](#)」の附属学校の1つに。「東京教育大学教育学部特設教員養成部」・「東京教育大学附属盲学校」・「東京教育大学附属聾学校」に。

1978(昭和53)年

- 「筑波大学」発足に伴い、「東京教育大学附属盲学校」は「[筑波大学附属盲学校](#)」へ、「東京教育大学附属聾学校」は「[筑波大学附属聾学校](#)」へ。

- 。また、土曜日曜には、鍼灸業界の集まりに招かれては新知識の講義をし、業界の進歩向上に尽くした。

- 『奥村鍼治学』という点字本は、1933年（昭和8年）に墨字訳され一般活字本として出版され、理療を学ぶ晴眼者にもきわめて便利な教科書として利用されていた。

- 『高等按鍼学』を全36巻の予定で起稿していたが、3巻を出したところで死亡した。49歳だった。墓所は雑司ヶ谷霊園。

- 1937年10月、金沢鍼灸マッサージ組合発起により、「奥村三策先生頌徳碑」が建てられた。1987年10月には、この碑のいわれを書いた板があらためて建てられ、奥村三策先生頌徳碑建立五〇周年記念の行事が行われた。

年譜

- 1864年 加賀国（現在の石川県金沢市）で生まれる
- 1867年 失明
- 1872年 金沢藩医について鍼灸・按摩術を学ぶ
- 1886年 東京府築地の訓盲啞院に入学する
- 1886年10月 訓盲啞院助手になる。12月 同嘱託になる
- 1912年1月2日 没、享年49

- 著書
- 『鍼用人体略説』 墨字版墨字、1889年
- 『普通按摩鍼灸学』 点字出版
- 『奥村鍼治学』 点字版。墨字版（1933年、墨訳者：谷田部康之）
- 『高等按摩学』 未完（36巻の予定。3巻を出して逝去）
- 『奥村三策先生遺稿集』 未刊（綴り本

- 文明開化の掛け声と共に、日本における鍼灸および漢方に大難が襲ったことがある。その大きな危機を打開し、更に視覚障害者の鍼灸教育の整備に大きく貢献した人物こそ、奥村先生でした。

郷里金沢の、金沢医学校にて聴講し、解剖・生理・病理などの西洋医学を学んだ後に東京の楽善会訓盲啞院に入学。生徒として入ったのだが、その才覚を認められ、按摩術助手を経て按摩術授業委託に就任した。（月手当金4円）

- 明治維新後、新政府は五箇条の御誓文に記された「旧来の老醜を破り」との方針の下、漢方・鍼灸撲滅政策を取り始めた。楽善会訓盲啞院も文部省の直轄学校となるや、鍼灸の教育が中止され、按摩の教育のみが行われた。

- 当時、教員に抜擢されたばかりの奥村先生はこの状況を憂い、鍼灸教育復活への奔走を始めた。
- 当時の矢田部良吉校長に「鍼治の効害ならびにこれを盲人の手術として危険の恐れのあるかないか」を東大医科大学長三宅秀に依頼し、それをうけて「鍼治採用意見書」が起草されました。これに論拠をえて、87年9月から鍼灸教育が再開されたのです。

- 海外からマッサージの原書を取り寄せて、その日本語訳を暗記して講義を行い、いち早く視覚障害者のマッサージ教育の普及に尽力した。
- ・ 鍼を通して電気を流してはどうかということも具体的に検討していた。
- 教科書参考書の執筆は最も情熱を注いだことのひとつです。按摩師が解剖・生理学を知らないのを憂いて89年に「針用人体略説」を著した。当時まだ点字が確立されていなく、暗記によって口述筆記されています。
- その他普通辞書3冊、点字書9冊を執筆した

鍼灸を科学した人

・間中 喜雄 (まなか・よしお)

- **1911年** 神奈川県小田原市に生まれる。
京都帝国大学医学部卒業後
- 1937年** 父親の代から続く「間中外科医院」を継承
第二次大戦に招集される
- 1946年** 「医療法人温和会間中病院」に改組
- 1957年** 京都大学医学部より学位を授与
小田原医師会長に就任
- 1960～1970年** 東洋鍼灸専門学校校長
中国・欧州等世界各地で講演
- 1969年** 谷美智士医師らとともに日本初の鍼麻酔手術に成功
- 1974年** 北里研究所付属東洋医学総合研究員客員部長に就任
- 1980年** 東洋医学の発展に貢献した功績により「日本医師会最高優功賞」を受賞
- 1989年** 肝臓癌のため死去 享年78歳

- 「多才な人」「気が多い人」と間中先生を知る人は口にし、誰もがその言葉に羨望の意を込める。
自分の直感を信じて常に新しい治療法へ、さらに新しい世界へと飛び込んでいった先生でした。

1911年、代々医者一家に生まれ育った母と医師である父の間に生まれ、**幼少時から飛び級で中学に入学する天才肌**だった。18歳になると、育った環境のせいか医師を目指し京都へ。
1953年、京都帝国大学を卒業して医師になり、東京で2年の外科修行の後、父の跡を継ごうと小田原に戻る。
第二次世界大戦のために招集され、一度帰国したが、再び招集され、約6年ほど軍隊で過ごす。

- 戦友に鍼灸治療をしたら、変なことをするヤツだと、軍医ににらまれたこともある。

西洋医学を学びながら、除隊後も鍼治療にのめり込んだため、医師会に呼びつけられ「医師らしくない」と注意されたこともあった。

- 1959年からすでに世界各国の鍼灸学会で講演をしていた。
1955年頃からは鍼を学びに来日した外国人医師を自宅に滞在させたり、1965年頃からは鍼に関心を抱いて小田原へ次々やってきた若者たちに指導をし、鍼の啓蒙にあたっていた。

鍼を操る先生は、患者の厚い信頼を勝ち取るが、医師の間では完全に変人扱いされた。当時、鍼灸に対する医学界の認識はそんなものだった。

- しかし、先生が日本初の鍼麻醉手術に成功した頃から、風向きが変わってくる。
- 1972年、アメリカのニクソン大統領が訪中の際、中国の鍼麻醉が世界に紹介され、鍼麻醉に素直に感嘆した西洋医学者が増え始めたのだ。拍手
- しゃれたダブルスーツに身を包み、海外に出れば持ち前の語学力で生き生きと国際交流を楽しむ先生の姿は、男があこがれる男であった。

- 忘れ去られた遺産になっていた鍼灸に再び光が当たった。当時医師でありながらあれほど鍼灸の力を世に知らせようとした人はいなかった。その行動力といくつになってもやんちゃなところが、同姓としても魅力的で「融通無碍」という言葉がよく当てはまる先生でした。
- 先生の研究室には、

- 「奇人・変人大いに歓迎。ただし一芸に秀でた者に限る」
- という張り紙があったそうです。

鍼灸業界の変わり者？

- 米山 博久 （よねやま ひろひさ）

- **1915年** 長野県飯田市生まれ
- 1934年** 鍼灸師免許所得
- 1936年** 大阪に出て東邦医学会に参加
- 1939年** 吹田市にて開業
- 1946年** 渡辺三郎博士の主催する刀根山鍼灸医学研究会に参加し、鍼灸の科学化のために研究を進める
- 1952年** 「医道の日本」に「[経絡否定論](#)」を発表して業界にその名を轟かせる
- 1958年** [明治鍼灸専門学校](#)の発起人となる
- 1960年** 代田文誌氏らと [日本針灸皮電研究会（現日本臨床鍼灸懇話会）](#) を発足
- 1966年** 伝統医学の日本・中国交流のための訪中代表団として、[丸山昌朗](#)、倉島宗二らとともに中国に渡る
- 1978年** [大阪鍼灸専門学校](#)設立発起人となり、学校長・理事を兼任する
- 1985年** 逝去 享年70歳

- 「経絡否定論」で業界に新風を巻き起こした革命児

「大真面目に診断を行っている人の気が知れない」・・・1952年に「医道の日本」2月号で発表した「経絡否定論」はそのタイトルに名前負けしない過激な内容で業界を騒然とさせた。

その4年後には「脈診無要論」を発表し、経絡学派と科学派に分かれて約2年にもわたる大論争を引き起こした

- 脈診無要論を書いた心情については、無用を主張するのが真意ではなく、これを動機に六脈を客観性のある有用なものに発展させたい狙いがあったそうナ・・・ムニヨムニヨ
- 経絡論争自体は、結局結論が出されることなく終息するが、その後、1960年に日本針灸皮電研究会を発足させ、代田氏とともに内臓体壁反射学説の普及に努めるなど、この論争から現代医学的鍼灸こそ我が道であると再確認しさらに研究を進めることとなった。

- そして、1978年大阪鍼灸専門学校を辞するまで4半世紀にわたり教壇に立ち続けた。拍手
- 現代医学を基本として高度な理論を分かりやすく教えた授業は学生に人気が高かったそうです。
- 国家試験に目標をおくことよりも、教師の自由な発想に基づく人間性の教育こそ大切であるというのが口癖だった。
- 筆が立つことでも知られており、「医道の日本」にも主な小論や記事だけでも50以上残している。

- 開業の鍼灸師というのは、誰に対するときも学問的にも人間的に開かれた医療人として堂々としなければならない